観光大使の名刺は市内観光施設の割引機能付きです。

▲写真左は観光大使に就任した宮地竹史さん（香美市土佐山田町出身）。
法光院市長からは、市内の鳴子業者が表面に装飾を施した市産ヒノキ製の委嘱状が手渡されました。

特集 星のまち香美市

全国には数多く星空観測スポットがありますが、実は香美市も全国有数のきれいに星が見られるスポットです。また、香美市には星にまつわる場所や史跡もたくさんあります。

この特集を読んで、今夜は悠久の時に思いを馳せながら夜空を見上げてみませんか。

星のまちの仕掛け人

香美市ではこの2年間、小惑星『香美市』の誕生、天文講演会や星空観測のモニターツアーが開催されるなど『星のまち』という機運が高まっています。その仕掛人が宮地竹史さん（沖縄県石垣市在住）です。宮地さんは国立天文台石垣島天文台の前所長で、沖縄の星空を観光資源にしようと『南の島の星まつり』などの星にまつわるイベントを各地で企画し、星空案内人の育成講座や講演も行っています。２０１８年には沖縄県観光功労者表彰も受賞されました。

宮地さんは、昨年1月に開催された『天文講演会・観望会in土佐山田』の講師を務められ、その後も『香美市は楽しい星のまち』としてさまざまな活動をされています。それらの活動が認められ、10月31日、香美市基幹集落センターで開催された宮地さんと関さんが講師を務める天文講演会の中で、香美市観光大使に委嘱されました。

小惑星『宮地』

宮地さんは大学在学中に国立天文台の前身である東京天文台に入台し、日本の数々の宇宙電波観測計画に当初から参画されました。石垣島など国内４カ所にある口径20㍍の電波望遠鏡を備えるＶＥＲＡ（ベラ）観測局の建設にも携わりました。特に石垣島天文台の建設においては、計画から携わり、所長も務められました。国立天文台を退職した後も、全国各地の星空関連イベントを企画・実施し、天文学の普及に尽力されています。その功績はコメットハンターから小惑星の名に『宮地』と名付けたいと打診があったほどです。宮地さんは二度断って、代わりにＶＥＲＡ観測局を設置した『石垣（Ishigaki）』、『小笠原（Ogasawara）』、『入来（Iriki）』と、石垣島絶滅危惧種の花『聖紫花（Seishika）』を命名してもらいました。

その後、再度の打診があり小惑星『宮地（Miyaji）』を了解されました。

香美市は楽しい星のまち

宮地さんは10月31日に香美市基幹集落センターで開催された天文講演会で、『香美市は楽しい星のまち』と題して、香美市にある数々の星が関わる場所やストーリーを話されました。香美市に関連する星の名に『香美市（Kamishi）』『アンパンマン（Anpanman）』『やなせ（Yanase）（やなせたかし）』『三嶺（Miune）』『龍河洞（Ryugado）』があること。香美市には天文学者であり学問の神様として知られる谷秦山の墓所や住居跡、星神社（※）と呼ばれる神社が多数あること。旧暦の七夕の日に訪れて隠匿した吉井勇さんの渓鬼荘など星に関する史跡があること。多くのファンがいるサン＝テクジュペリの「星の王子さま」を翻訳した倉橋由美子の出身地であること。中でも、世界的に希少価値の高い在所隕石の落下地点があり、香美市は楽しい星のまちと話されました。

定員の90人近く集まった来場者は宮地さんの話に聞き入り、日頃気づいていなかった香美市と星の縁に感動していました。

①②の写真は、観光大使委嘱の様子
①宮地さんから市へ小惑星『香美市』命名記念額が贈られました
②香美市の特産品セットを宮地さんに贈りました
③天文講演会の様子

宮地竹史（みやじ たけし）さんプロフィール

1948年　香美市に生まれる。
1967年　高知追手前高等学校 卒業。
1968年　電気通信大学短期大学部通信工学科入学。1972年卒業。
1968年　東京大学東京天文台（現・国立天文台）入台。
太陽電波の観測、日本初の宇宙電波望遠鏡（６㍍）の製作、野辺山宇宙電波観測所（長野県）の建設プロジェクトに参加。
1982年　45㍍電波望遠鏡の完成。星間分子の観測、研究。
1988年　国立天文台 発足。
VSOP（宇宙電波望遠鏡衛星計画）・電波天文衛星「はるか」計画参加。
2000年　VERA計画（岩手県／水沢・鹿児島県／入来・小笠原・石垣島に観測局を建設）参加。
2002年　VERA石垣島観測局 完成。
南の島の星まつり 開催。
2006年　国立天文台 水沢VLBI観測所石垣島天文台 完成。
副所長に就任。
2013年　石垣島天文台所長に就任。
2016年　12月退職。